

(様式 3)

令和 6 年度 しまねの公民館次世代参画支援事業 実績報告書

市町村名	雲南市三刀屋町	公民館等の名称	三刀屋地区まちづくり協議会 (三刀屋交流センター)
------	---------	---------	------------------------------

事業の 目的	地域事業への参加による地域間・世代間交流をきっかけに、主体的な参加を促す仕組みづくり。 地域を担うこどもたちの、ふるさとを思う心を育むこと。
事業の内容	○ターゲットとする世代 小学生（と保護者）、中・高生 ○地域の状況やターゲットとした理由 旧三刀屋町には、子どもたちが参加してきた伝統的な地域文化があるが、合併して雲南市となったことや、コロナ禍により、旧三刀屋町で定期的に行っていた伝統行事が減少傾向にあり、人々のかかわりも希薄化している。こういった地域の状況について、地域住民からは、寂しいという声があがっている。 小学生（と保護者）、中・高校生をターゲットとすることで、伝統文化の継承と、ふるさとを思う心を育みたい。 ○事業の内容（日時、場所、参加者数、具体的な活動） 【呼び込むための活動】 ☐ みとやハンドメイドマーケット みとやっこまつりでの「梅が香音頭踊り」への参加をよびかけるとともに、踊りの際に使う小物作りのワークショップを実施。（写真 ①②） ☐ 夏休み学習の場 交流センター図書コーナー「ひなたぼっこ」で学習する子どもたちと一緒に、踊りの練習やプラカードを作成し、まつりでの梅が香音頭踊りの参加を呼びかけた。（③④⑤） ☐ 広報紙、回覧等の活用 自治会回覧や、広報紙、チラシ等で梅が香音頭踊りの参加者を募集した。（別添） 三刀屋地区から 75 名の参加申し込みがあった。      【参画につながる活動】 ☐ 『みとやっこまつり』に向け三刀屋高校 JRC 部と「梅が香音頭踊り」の練習会を実施。（⑥）

- 衆議院解散総選挙により『第45回みとやっこまつり』の中止が決定したが、『梅が香音頭おどり交流会と梅スイーツの試食会』を開催。

子どもから高齢者までが一緒に踊り、交流を深めた。(⑦⑧)



【工夫した点】

- ・梅が香音頭おどりに参加するだけでなく、自ら作り上げていくという意識を向上させるため、踊りに関わるものを一緒に手作りした。
- ・ラジオ体操カードをヒントに、「梅が香音頭練習参加カード」を配布し積極的な参加を促した。
- ・踊りの指導や参加には、地域の粋をこえてPRを行った。また、踊りだけでなく歌詞にも注目し、子どもたちがまだ知らない、ふるさと三刀屋の風景を伝えた。

○期待する成果・効果

- ・既存の事業に、「梅が香音頭踊り」への参加のきっかけづくりを加えることで、関りが途切れないという効果がある。
- ・地域住民それぞれが手掛けたものを地域の中で活かすことにより、活躍の場があることを実感したり、達成感や満足感を得たりすることが出来、積極的な地域参画につながることを期待できる。
- ・子どもたちにとっての地域活動の場は、普段、あいさつを交わす程度でしかない地域の人たちと会話できる大切な時間であり、地域の中で守られて生きている実感と、ふるさとを思う心を育むことができる。
- ・地域を担う子どもたちが「梅が香音頭踊り」に触れる機会を増やすことで、地域文化の継承につながる。

○計画書に記載された「期待する成果・効果」をふり返って見られた成果や課題、次年度以降の見通しなどをご記載ください。

成果と課題
今後の見通し

- ・「梅が香音頭踊り」への取り組みは順調に進めることができたが、「みとやっこまつり」が中止になり、子ども達と一緒に作りあげた成果物を公に披露することができず、残念だった。当初、子ども達のための「チームひなたぼっこ」で踊りに出場する予定だったが、イベント中止により高校生や地域住民とひとつのチームになって良い雰囲気の中踊ることができた。
- ・子どもたちにとって、学校では運動会や発表会で、自分たちが作り上げたものを活かす場はあるが、地域でもそれができるということを知る機会となったのではないと思う。
- ・「みとやっこまつり」に向けて催しを計画していた島根県立三刀屋高等学校 JRC 部と一緒に代替イベントを開催できたことは大きかった。三刀屋高校 JRC 部では、三刀屋の梅を活用した取り組みにチカラを入れているので、今後も「梅」つながりでの事業の共催が期待できる。
- ・みとやっこまつりの開催について、今後実行委員会で検討されるようだが、「梅が香音頭おどり」に触れる機会が減ることのないよう、近隣の組織とも協力し地域文化の継承につなげていきたい。同時に、男性の参加を増やすことも課題。